

「勉強の先取り学習～小学生編～」

お子さんが、小学校低学年なら習う学習内容が簡単ですので、テストでは大多数の子が高得点を取ります。

そうすると、

「うちの子、もっとできるんじゃないかしら？」

「今の勉強では力を持て余しているんじゃないかしら、もったいない」となってしまうお母さんも多いと思います。

「這えば立て、立てば歩めの親心」といったところでしょうか。

これから「成功する先取り学習」と「失敗する先取り学習」についてお話しします。

まず、「**失敗する先取り学習**」です。

「小3だけど中学生の方程式が解けるようになった。」、お母さんは「うちの子、天才!？」お喜びの所、申し訳ありませんが、「計算が解ける」と「計算の仕組み(原理)がわかる」とは決定的に違います。それゆえ、単に「計算が解ける」だけでは学習効果はあまり高くありません。

どんどん先に進んでしまっても「算数の原理」をないがしろにした「数の羅列」では「できるけれど、わからない」となり、腑に落ちる間がありません。過度の「先取り学習」は、成果が出ない。ということです。

具体例：小2生が「九九」を覚えた直後、に以下の問題を解いてもらいます。

Q：5人の子どもに、1人に飴を5個ずつ配ります。飴は全部で何個必要ですか？

A： $5 \times 5 = 25$ 答え 25個

しばらく時間が経ち、学年末頃に同じ問題を出題すると。

Q：5人の子どもに、1人に飴を5個ずつ配ります。飴は全部で何個必要ですか？

A： $5 + 5 = 10$ 答え 10個

これも「文章題ができない理由」のひとつです。

九九を覚えたて直後は、「九九をならったのでかけ算で解くのだろう。」となり、学年末期には、「馴染みの深いたし算」で10個と解答してしまったのです。

原因は、「たしざんは同じもの同士をあわせるもの」という原理をないがしろにし、単なる「数合わせ」化しているからです。「人+飴」、あり得ませんね（笑）

やはり、最適な時期に深い学習をすることが「応用力を付ける」王道です。

次に「**成功する先取り学習**」です。

国語と算数に分けて話します。

～国語編～

「漢字の読みはどんどん先取りして下さい」。
漢字が読めるようになると「本」が好きになります。
「本が嫌いな子」の本質は「漢字が読めない」からです。

そして、ココ重要です。

「漢字の書きは後回し」です。
上級学年の書き取りを親子で行うと
「書き順、またちがってるじゃない」や「バランスが悪い」
等々親子喧嘩勃発です。

◇国語のまとめ

- ・漢字の読みは「上級学年までガンガン進め」
- ・漢字の書き取りは「当該学年を丁寧に」

～算数編～

◇算数のまとめ

- ・先取りは学校の授業が聴き易くなるような「ちょっとの予習」を。
- ・学習単元の原理原則を身に付けることが「応用力育成」の一番の近道。

三条高校 巻高校への本気組支援塾

飛燕ゼミ

塾長 宇佐美 利宏

〒959-0237 新潟県燕市吉田堤町 2-15

TEL 0256-92-8805 FAX 0256-92-8808

Mail cai_yoshida@wave.plala.or.jp

ブログ <http://hienzemi.blog94.fc2.com/>

HP <http://hienzemi.com/>